
邪念

じかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

邪念

【Nコード】

N6131Y

【作者名】

じかん

【あらすじ】

憎悪の一心で、男はお百度を踏んでいた。

怨みを懐きながら逝ったモノたちが永眠している場所は簡素でひっそりとしていた。

あの女が怨みで悶え苦しみ死ぬことを望んでいるが、あるいはあの女の悪運が強くて

何事も無く済んでしまいかもしれない。この場所でダメなら他を探すつもりでいる。彼

はことが成就することをひたすら念じ、恨みに取りつかれて、深夜の寺の目立たない場所でお百度を踏んでいる。

知り合いに連れて行かれた高級クラブのホステスの彼女の20代という若さと営業ス

マイルにトーク、男心を巧みに刺激して翻弄するテクニクは鮮やかだった。そのよう

なことに免疫の無かった彼は魅了されて、恥ずかしいほど夢中になりのもり込んでしま

い、普通の会社員の彼には不相应なお店に少し無理をして頻繁に飲みに行くようになって

た。お酒はあまり好きではなく居酒屋でもビールを一杯程度で、その他はクラブなどに

も長い間飲みに行っていなかった。

離婚をしてからかなりの月日が流れていて寂しさのせいもあったのかもしれないが、

軽い気持ちでアクセサリーをプレゼントをした時に彼女が思いのほか喜んだのがきつ

かで、色々と贈り物をするようになってしまった。そしてそれなりに関係に発展して時

が経ち、女に執拗にマンションを買ってこないかとせがまれてし

たたかさにも負け
て、思い切ってマンションを買い与えた。

彼の預貯金が底を突きそうになり始めたので、これまでのように
お店に通う回数も減
ることと、贈り物も今までのようには出来なくなったと事情を話す
と女はあまりにも冷
淡で素っ気無い態度を示した。

二人の関係はその時点で既に終わっているのを感じたので、彼は
彼女が本の少し真心
を見せてくれれば、それだけで、乱れた気持ちを静めることが出来
ると思っていた。そ
して大人の振る舞いとして引き際はきれいにさっぱりさせたかった
ので、そうするつも
りでいたが、女の態度は酷くて電話をしてもろくに話そうともせず
に、適当な返事で会
話をはぐらかしてはさっさと電話を切られて、ささくれ立った心を
逆撫でされた。

そして仕舞いには電話にも出ないで、彼女は彼に対して冷たさの
度合いは歴然と明ら
かになった。見せ掛けだった親密な関係も砂で築いたお城のように
音も立てずにもろく
崩れて、お店に飲みに行ってもまったく相手にされなくなり、彼の
近くに座っても御座
りない理由をつけては直に席を離れた。彼も自分が若くはなく魅力
も乏しいことは自覚
しているが、それでも女の態度には憤懣やる方なかった。

彼は同時に悲しくもなり、そしてその思いはやがて悲しみを通り
越して、怒りに変わ
り恨みに変わり、心はどろどろとどす黒く渦巻いて間接的な報復行
動に踏み切った。

お百度を踏んでいる場所は通りからは見えないようになっていて、この場所を探すのにはそう苦労はなく電車と車でこまめに移動して調べて、怨念の強そうな所を探したら案外と近くにあったので、見つけた時の彼は薄気味の悪い笑いを浮かべた。

回数を数える竹串を買い、深夜に目立たないように服装は黒一色だった。冬なのでコートを着たままで行なう事も考えたが、薄着の方が効果が上がるかと思い深夜の寒い中、石畳を素足でひたひたと歩いては、竹串を一本、また一本と置いていく。最初の内は砂利などを踏んで足の裏が痛かったが、その都度石をどけて徐々にそれも無くなった。

住宅街からは少し離れていて、お百度を踏んでいる近くの道も人通りが無い。九十九本、あと一本だと寒さをこらえてこごえた手足をさすると自らを励ました。遂に最後の一本を置いてお百度を踏み終えてから、念のため置いていった竹串を数えたが、確かに百本ある。彼の目はくぼみ頬はげっそり落ちて甚だしく人相も変わってしまった。身体も痩せ細り同一人物とは思えない様相で、彼がこの場所を見つけた時以上の不気味で病的な表情だった。

心は病み憎しみの一心であの女がどうなるかだけが楽しみで、足取り軽くその場を離れた。

それから毎日が新聞を買い漁り、事件、事故の記事を中心に隈な

く目を通し女の名前を探した。テレビはニュースしか見ないで、いつもわくわく期待に胸を膨らませている日々が続いた。

しかしそれも長くは続かず一向に駿が見えなかったので、彼はだんだんといらいらしてきた。確認の為に女に電話を掛けたら着信拒否されていて繋がらず、公衆電話から掛けても女は出なかった。

もしかしたら既に死んでいるのか、或いは重度の障害に陥って苦しんでいるのかもしれないと脳裏を過ぎったので、女のマンションの様子を見に行くことにした。

会社を仮病で休み、昼間に女の部屋を見たがカーテンも閉められていて居るのか居ないのか判然としなかったので、次は日を改めて女の店の休みの休日の夜にマンションを見に行くつもりで、部屋に女の影も見えたので生きていると分った時は更に憎悪が深まった。

いっそのこと女の部屋に乗り込んで直接的な行為に及ぼうかとも思ったが、そうなる

と口論以上の行動になってもならなくても刑事事件になって仕舞う可能性もあり、警察

沙汰で逮捕などされては本も子もないのでそれだけは避けたかった。そしてしばらく女の部屋を見ていた時だった。女の部屋で爆発が起きて、彼の足元に

何か飛んできて転がり止まったので、よく見ると女が絶命したと分るはつきりしたモノ

だった。彼は声を出して喜び狂喜乱舞してその場を立ち去り、し

ばらく歩いていと

建設現場の足場が崩れて彼に直撃して彼も命を絶たれた。

人を呪わば穴二つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6131y/>

邪念

2011年11月18日13時23分発行